

国

語

( 解答番号 )

1

}

34

(

## 国 語

試験時間60分

## 〔注 意〕

1. この問題冊子は指示があるまで開いてはいけない。
2. 受験番号が正しく記入・マークされていない場合は0点となる。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にマークすること。例えば、問題文中に 

10
----

 と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように **解答番号10の解答記入欄の③**にマークすること。正しくマークされていない場合は採点できないことがある。

(例)

解答番号	解答記入欄 (マーク)									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

4. 問題冊子の各ページの余白は自由に使用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
5. 試験終了後、解答用紙は通路側に置くこと。なお、問題冊子は持ち帰ること。

## 〈マーク式についての注意〉

1. 機械が読み取って採点するので、折り曲げたり汚したりしないこと。
2. マークはHBの鉛筆で枠の中を濃く塗りつぶすこと。
3. 1つのマーク欄には1つしかマークしないこと。
4. 訂正はプラスチック消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除くこと。
5. 所定欄以外には何も書かないこと。

問題一 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

今回の新型肺炎で、判っていることは少ない。すでに、私たちは二世紀に入って、SARS、MERS、あるいはトリインフルエンザのような、パンデミックの可能性のあるウイルス感染症の発生を経験してきた。SARS、MERS、ともに中国が原発地のようなが、前者は主としてヴェトナムで、後者は韓国で、いずれも、多くの犠牲者を出しながら、辛うじて激的なパンデミックになる前に、とりあえず、終息を見た。とりわけ日本では、無風状態に終始した。それが幸いであったのか、今では聊か怪しくなっているが。

世界全体でみたとき、現時点(二〇二〇年四半ば)で判っていることは、大まかな死亡率は三パーセント前後、但し、ヨーロッパでは、ドイツを除いて一〇パーセントを越えるところが多い。人口当たりの検査率は韓国が圧倒的に高く、日本(は極端に少ないが)の一〇〇倍を超えているのは、イ。

そこから視えるウイルスの特徴は、感染率は極めて高いが、死亡率はある程度穏当で、その意味では、a 極めて「賢い」ウイルスは本来生き物ではないが、生体内で「生きる」ための戦略に長けている)性格のものだという点である。それは人間にとっては、具合が悪いのは当然で、不顕性の患者、いわゆる(Silent spreader)が多数あることの原因でも、結果でもある。ウイルスには少なくとも三つほどの異型が存在するらしいし、ヨーロッパでの死亡率が高い理由をその点に求める人々もいるが、確証はないし、ドイツの例外を説明しきれぬか、疑問は残る。日本の死亡率が、世界平均よりかなり低い(二・三パーセント程度)ことが注目を浴び、乳児にBCGを強制接種していることに原因を求める向きもあるが、根拠は全くない。なお、SNSを国際的に賑わしていた、武漢所在のBSL4(古い言い方ではP4)で細工をしたウイルスが流出した、という過失説、あるいは陰謀説に対しては、COVID19には、人工的に細工のされている形跡はないことを、分析的方法で論証できる、という信頼すべき論考がある。

この事態は、当分続くことが予想される。社会免疫ができるには、感染力が異様に高いCOVID19でも、一年以上かかるだろうし、SARSやMERSの例でも判るように、ワクチンの創成も、簡単には期待できない。特效薬と言われるアビガンは、インフルエンザや、エボラ出血熱など、ウイルス性の感染症などに効果があるのでは、という期待の下で、日本で開発されたものだが、COVID19に対する効果は、今のところ未知数の段階である。このような状況が社会全体を覆うロは、かつてないほど大きい。その中で、未来社会への展望が、全く拓けないのでは、余りに哀しい。

一つのポイントは、今の社会は死を遠くに置きすぎているか、という点である。例えば、ある一人の喜劇タレント(と呼んでおくが)がCOVID19の犠牲になったことが、まるで天変地異、大災害が起きたように、連日大きな時間を割いて報道される。彼の死を悼むことにおいて、1人後に落ちないとは言え、我々は、類例を見ない超高齢化社会にいる。そして超高齢化社会とは、その成員の相当数が、常に死と隣り合わせに生きている社会である。私たちは、そのことを今度の災厄で学んでもよいのではないか。

かつての「非常時」、私たちは、今日を生き延びられた夜、ほっとして今日一日を何とか「生きた」という実感を、取えて言えば「悦び」を得ていた。私は小学生だったが、その実感は今も忘れない。しかし、今日、そうした「生」の充実感は、どこか遠いところにある。「死」を遠去けた結果、「生」もまた遠去かったのかもしれない。私は高齢者の一人として、今日を無事に生き得たことを、何ものかに感謝する習慣を取り戻している。

一七世紀のイギリス全土で、ペストが流行した際、ケンブリッジの学生だったニュートンは、大学が休校になったために、故郷のウールソープに戻って塾居していた間に、彼の、現在でいう物理学的な仕事の基礎をほとんど、完成したという故事がある。ニュートンの「強制された休暇」とか、「創造的休暇」などと呼ばれる。社会が2未曾有の危機に立たされたとき、その中から、次の時代をリードするような新しい芽が生まれてくる事例、と評するには、個人的に過ぎるかもしれないが、一つの教訓にできるかもしれない。

閉塞状況によって圧伏されているエネルギーが、新しい価値の追求に向かって爆発する、という事態は、歴史のなかに決して少なくない。無論、後世からみて、3肯定的に評価できる例ばかりではない。ロシア革命もそうだったろうし、ナチスの政

権掌握も、同じようなパターンとみることもできよう。どちらも、為政者側の、状況に対する対策の「無力」さが、要因の一つになっている。そうしたモブ的反応、あるいはデモクラシー（今日ウェブ上で股賑を極める「デマ」の語源とも通底する、その語のもともとの意味における）的な気配が、今見えないこともない。例えば、フランスでは、当初中国政権の強権的な体制側の力の発動を、民主主義（この場合は、現代の価値的イデオロギーとしての）に反するとして、liberté（直訳すれば「自由殺」だろうか）という「ゲキエツ」な言葉で叩いていたが、今では警察や軍隊を動員した、極めて強権的な政策に甘んじて承引している。日本でも緊急事態宣言の元になる法案の審議に際して、私権の制限になるという論点から反対した勢力までが、緊急事態宣言が出されてみると、「遅すぎ」、あるいは「緩すぎ」という反応を示している。今、厳密な(lockdown)の出来ない日本の状況を、<sup>(通)</sup>菌瘴が人々が多い。こうした傾向が、<sup>(C)</sup>理念的自由主義・共和主義について回る非効率性への諦めを生み出す可能性はないか、慎重に見守らなければならないポイントの一つに違いない。

しかし、「緩い」と思われる規制政策のなかで、日本人（の大多数）が示した良識ある行動は、流行の激発をとにかく抑え込むことに、少なくとも今のところ成功している。この点は十分に評価されてしかるべきであろう。

当然誰でも指摘することになるが、情報技術の普及は、これまであまり利用意欲を持たなかった高齢者層も含めて、さらに<sup>(2)</sup>ビヤク的に増大するだろう。実際、今まで職場でなければできないと信じられていた仕事が、在宅でも実は可能であった、ということが明らかにれば、それこそ今の政府の言う意味とは別に「働き方改革」が

ハ。

もちろん、製造業の現場

は、決してテレワークで置き換わることはないが、それでも無人化の意味が再度問われるかもしれない。そして、この非現場主義は、音楽など、通常の「働き場」とは性格の違う領域にも<sup>(3)</sup>シントウし、画期的な試みがすでに幾つも実験されつつある。

ただ、気になるのは、ウェブの積極的活用の裏に、極度の(popular sentiment)の高まりがあることである。「ポピュラー・センチメント」は「パブリック・オピニオン」とは違う。かつて日本語はこの二つを区別するのに「世論(せいろん)」と読ませたと「輿論」があった。戦後の漢字利用を巡るご都合主義で、この二つを区別する方法を失った。今ウェブ上に広がる文字情報の相当部分は、もっぱらポピュラー・センチメントを煽る<sup>(d)</sup>デマゴークである。デマゴークとは「誤ってい

る」というだけではなく、人々を誤った方向へ誘導する「教育力」という意味を持つ。実際、ただでさえCOVID-19は、判らないことだらけ、そこにデマゴークが溢れたとき、その結果は恐ろしい。逆に言えば、今度の災厄を好機に転じて、ウェブ上の真偽を見分ける術を、人々が学ぶことが出来れば、とも思う。

最後に、やや抽象的な望みを記しておきたい。今日の社会に必要な理念の一つ、それも重要なそれは「寛容」ではないか。例えば為政者の場合、こうした非常時の事後評価に常に付きまとうディレンマがある。それは「あのときなすべきでなかったことをした」と「あのときなすべきであったことをしなかった」という肢の間に起るディレンマである。それに対して、私たちは、厳しい批判をぶつけがちである。正当な吟味による批判がなければ、社会は前に進めないが、しかし、そこには「寛容」が求められるのである。為政者は上のディレンマに基づくいわれのない非難をも受け入れる寛容さが必要である。評価する側にも、人間は常に「ベスト」の選択肢を選ぶことのできる存在ではないことへの理解が必要とされるだろう。その意味で、私は、「寛容」の定義の一つとして、人間が判断し行動するとき、「ベター」と思われる選択肢を探すべきであって、「ベスト」のそれを求めるべきではない、というルールを認めることである、と書いておきたい。

（村上陽一郎「COVID-19から学べること」による<sup>(e)</sup>

【出典…COVID-19から学べること】「コロナ後の世界を生きる―私たちの提言」所収

問一 傍線部(1)～(3)の片仮名に該当する二つの漢字と同じ漢字を使うものとして最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

- |   |                  |   |
|---|------------------|---|
| <p>(1) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span></p> <p>① ゲキリンに触れる<br/>② ゲキを飛ばす<br/>③ ゲキレイの言葉<br/>④ ゲキヤクの入った瓶</p> | <p>ゲキ<br/>エツ</p> | <p>(2) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2</span></p> <p>① 手紙のケンエツ<br/>② ゴエツ同舟で協力する<br/>③ 主君にサンエツする<br/>④ ごマンエツの様子</p> |
|---|------------------|---|

- |   |                 |  |
|---|-----------------|--|
| <p>(2) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3</span></p> <p>① ヒゴを求める<br/>② ヒキンな例<br/>③ 破片がヒサンする<br/>④ 役職をヒメンされる</p> | <p>ヒ<br/>ヤク</p> | <p>(4) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4</span></p> <p>① ヤクシンを遂げる<br/>② ヤクトクの多い仕事<br/>③ 彼はケンヤク家だ<br/>④ 本のシヨウヤクを読む</p> |
|---|-----------------|--|

- |   |                  |  |
|---|------------------|--|
| <p>(3) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5</span></p> <p>① 意味シンチヨウな表情<br/>② 人権のシンガイ<br/>③ 寺にキシンする<br/>④ 教えがシンジュンする</p> | <p>シン<br/>トウ</p> | <p>(6) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6</span></p> <p>① 自然トウタ<br/>② やり方をトウシユウする<br/>③ トウテツした論理<br/>④ 味覚のトウサク</p> |
|---|------------------|--|

問二 二重傍線部(i)～(iii)の語句の意味として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

- (i) 7      (iii) 9

- |   |                                 |                 |
|---|---------------------------------|-----------------|
| <p>(i) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7</span></p> <p>① 異論はない<br/>④ ひげをとらない</p> | <p>② やぶさかではない<br/>⑤ 後悔したくない</p> | <p>③ 批判はしない</p> |
|---|---------------------------------|-----------------|

- |   |  |                      |
|---|--|----------------------|
| <p>(ii) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">8</span></p> <p>① 未だ解決しないこと<br/>④ 甚大な被害を出すこと</p> | <p>② 金輪際起こらないこと<br/>⑤ 過去に一度もなかったこと</p> | <p>③ 絶望的な状況であること</p> |
|---|--|----------------------|

- |  |                                  |                 |
|--|----------------------------------|-----------------|
| <p>(iii) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">9</span></p> <p>① もどかしいと思う<br/>④ 白々しいと思う</p> | <p>② 恥ずかしく思う<br/>⑤ 煮え切らないと思う</p> | <p>③ 危険だと思う</p> |
|--|----------------------------------|-----------------|

問三 空所イに入る文として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

10

- ① SARSの記憶に基づいた経験則であろう
- ② MERSの傷跡が残した遺産であろう
- ③ 激烈なパンデミックの賜物であろう
- ④ ヨーロッパでの死亡率が高いことの傍証であろう
- ⑤ MERSの流行が無風状態に終始した結果であろう

問四 筆者が波線部（a）と考える理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

11

- ① ウイルスに異型が複数存在し、アピガンの効果も未知数だから
- ② ウイルスに感染した患者がみな不顕性の患者だから
- ③ ウイルスが生存・増殖するための環境をうまく残しているから
- ④ ウイルスによる死亡率が地域によって異なり、その違いの原因が解明できないから
- ⑤ ウイルスが人工的に細工されたものであると人々を誤解させたから

問五 空所ロに入る語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

12

- ① 臨場感
- ② 背徳感
- ③ 寂寥感
- ④ 閉塞感
- ⑤ 焦燥感

問六 波線部（b）を具体的に説明したものととして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

13

- ① 大学が休校になり、将来有望な学生が蟄居せざるを得なくなる
- ② 経験のない事態に対して為政者の対策が無力である
- ③ 私権の制限に慎重になるあまり対策が遅れてしまう
- ④ 多くの人が常に死と隣り合わせに生きている社会になる
- ⑤ 人々が民主的とはいえない強権的な体制の誕生を求める

問七 波線部（c）の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

14

- ① 多様な人々が暮らす社会では、その全員を満足させるサービスは不可能なので、公助に頼るばかりではなく自助をしつかりしなければならないということ
- ② 人間には自由に生きる権利が与えられているとはいえ、疫病や自然災害の脅威の前では無力であると自覚せざるを得ない
- ③ 非常時には、民主主義的なプロセスでは時間がかりすぎると感じる人が増えて、強権的な体制やリーダーの存在を望む
- ④ ウェブ上においては誰もが自由に発言できる反面、事実に基づくデマがはびこるのも受け入れなければならない
- ⑤ 現代において、人は自由に自身の行動を選択することができるが、常に「ベスト」の選択肢を選ぶことはできない

## 問八

空所へに入る最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

15

- ① 残念ながら進展するかもしれない
- ② 思惑通りに達成されるかもしれない
- ③ ほどなくして机上の空論となるかもしれない
- ④ 大方の予想に反して先延ばしになるかもしれない
- ⑤ 期せずして実現するかもしれない

## 問九

波線部（d）の、本文に即した説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

16

- ① 事実と異なるうえに間違いであることを証明するのが難しく、適切な教育を受けていないと真偽がわからないもの
- ② 間違っていることに加えて、次々と別の間違った説に人々を誘導してしまうもの
- ③ 事実ではないが意図的な嘘ではないために、人々が信じるに足る説得力を伴ったもの
- ④ 間違っているうえに、人々を正しくない認識や行動にいざなうもの
- ⑤ 正しい情報ではないが、人々に真実を教えたいという正義感に基づくもの

## 問十

本文の内容に即した記述として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

17

- ① 社会が危機に立たされたとき、そのエネルギーが良い方向に向かうこともあるが、悪い方向に向かうこともあるので、よく観察して次の時代の教訓とするべきだ。
- ② 死を実感することが減ると同時に、生きることの「喜び」も感じにくくなった世の中で、今回の新型コロナウイルスの流行によってかつての「非常時」のような「生」の実感を人々を取り戻した。
- ③ ウェブの積極的な活用は、人々の働き方を見直す契機になり、芸術や製造業など現場が必須な領域を除き、多様な働き方を可能にするだろう。
- ④ 今回の新型コロナウイルスのような災厄において、明確にわかっていることが少ない中でデマゴーグが溢れることは脅威であるが、正確な情報を見極める力を養う好機でもある。
- ⑤ 社会の危機にあつては、為政者には自身を日頃批判する人たちをも救う寛容さが、人々には「ベスト」ではなく「ベター」な選択を受け入れる寛容さが求められる。

問題二 尾崎翠の小説「第七官界彷徨」に関する次の評論文を読んで、後の各問に答えなさい。

第七官界では何が起こるか。日ごろ見慣れていたものの形、音、大きさが変容するのである。

(形) 上つぱり→いろんなかたちの雲

(音) 土鍋の液の音→祖母があんこを煮る音

(大きさ) ① 藓の湿地→森林

綿棒→帚

もちろんそのものに魔法がかけられて、ほかのものに化けてしまったわけではない。変容は、それを見たり聞いたりしている「私」の感覚世界の中で生じたのだ。そのときの「私」の状況は「身辺はいろんな匂ひでかためられ」「こみ入った空気を鼻から深く吸ひいれ」そして「ただ睡いのである」。眠くてたまらないとき、私たちの周囲のものの形が歪んだりぼやけたりするのをしばしば体験するが、きつと「私」もそういう半覚醒の状態だったのだろう。② 私たちはものを認識するのに目を使うけれど、視覚だけで判別することはできない。机が机であることを認めるためには、机とはどういうものかという知識や記憶——学習に基づいている。「人間の視覚についての専門家たちは、われわれに物が正しく見えるのは想像力によって視覚の欠点を補っているからだ」と断言している」とバートンは言う(『動物の第六感』)。

(注) 一助が実験の時は上つぱりを着るという知識があるからこそ、いつもは上つぱりに見えている。でも睡さのあまり頭を動かすことのできない状態のぼやつとした目には、多忙な二助の動作につれて揺れ動く上つぱりは、白っぽい雲として映る。第七官界は、固定概念を排除したところに生じる純粹の感覚世界なのだ。机の上の平べったい器に繁茂しているコケ群落は、その上に「私」がうつむいていくに従って、森林に変容する。正確にいうと、このとき変わったのは「私」のほうである。女の子の中でコケは小さいものという概念が崩れおちる。女の子の目が焦点距離の短い虫眼鏡になり、コケは森として見えてしまう。あるいは反対の状況を想像することもできる。森林の上をヘリコプターで飛ばば、森林が樹木の集まりであることは確

認できる。でもヘリコプターの代りに飛行機に乗って、上空二万キロまで上昇してのぞいた森林は、私たちの目にはべつたりと地をおおったコケのように見えるであろう。それがタイガであるとか、熱帯雨林であるとか思うのは、私たちの予めの知識によっている。見ている主体の状況によって、見ているもの大きさや形は容易に変わって感じられる。尾崎翠は、この場面を書くとき、このように変容する世界を書いたのである。

J・V・ユクスキュルは『生物から見た世界』という著書の中で、満開の野原の花の茎がどんな役割を果たすかを考えた。まず胸飾りにつける美しい花束を編む、花摘む少女の環境世界では、花茎は装飾の役を演じる。③ 茎の表面の模様を

伝って歩き、花卉の中の食物に到達するアリの環境世界では花茎は道の役を、導管に穴をあけ茎から液汁の供給を受けながら、自分の泡の家をつくるアワフキムシの幼虫の環境世界では給油所の役を、茎や花を食べ、大きな口に押しこむウシの環境世界ではえさの塊りの役を演じる。④ ユクスキュルは、四つの異なった環境世界では、同一の対象物が四つの異なった意味をとり、どの場合もその性質が根本から変えられる、という事実を示したのだ。⑤ もちろんこの事実も、次のよう

な結論も引きださだろう、と筆者は考える。少女にとって花茎は給油所ではないし、アワフキムシにとっては道路ではなく、アリにとつてはえさではなく、ウシにとつては胸飾りではないのだ、と。私たちが人間中心に存在している一つの世界を盲信しているかぎり、世界は単純明快でけつして「霧のやうに」は見えないのである。

⑥ ユクスキュルは「きわめて強い影響力をもっていて、⑦ 主体にだけしか見えないような現象のおこる環

境世界」の存在を認め、これを「魔術的環境世界」と呼んだ。子供が魔女を見たとき怖がるのは錯覚ではなく、ほんとうに子供の環境世界に出没したと考えるのである。これはこじつけであろうか？ これがこじつけであるとしたら、現代の抽象絵画はどうであろうか。あのねじ曲がった人の顔やものの形や、形にならない線や点や現実にはない複雑な色のすべては、想像の産物か、それとも画家の環境世界にはんとうに現われたものなのか。私はやはり画家たちはほんとうに視、て、い、る、の、だ、と、思、う、少なくとも私たちに強いインパクトを与える画家においては、抽象画家たちは私たちがちがう特別の目を隠しもつていて、その目で視たと、お、り、を、描、い、た、の、だ、抽象絵画のあるものは私によく理解できるが、別のものは理解できない。それはたぶん私の

中で、私を主体としてありうべき作品と、全くありえない作品を瞬時に察知するセンサーが働いたからである。抽象画家が描いた世界は、私たちには見えないけれど、たしかにどこかあることを感じさせるので、(c) 私たちは日常からかけ離れた形や線や色彩に共感を持つことができる。そのとき見る者と描く者は同じ環境世界に座っている。それが容易に可能なのは、画家と私たちが人間という同じ種であるからだろう。

(a) 第七官界への旅は、私たちの状況が私たちのおかれている日常性から遠ざかろうとするときが始まる。たとえば覚醒と睡眠のあわいのひととき、高熱ではなく微熱が長く続くような状態のとき、私たちはしばしば異なる感覚世界に引きこまれる感じを持つ。部屋にあるソファアームはいつも見慣れたものなのに、ふいにどこかよそよそしく自分のソファアームではないような変な気がする。半病人のときに限って出現するこの感覚世界は、第七官界の入り口である。第七官界は現実と夢との境に現われ、日常と非日常を一続きのものにする中間地帯なのだ。この中間地帯に立って、私たちはその両方の世界を見わたすことができる。

(加藤幸子「尾崎翠の感覚世界」による)

〔注〕二助：尾崎翠の小説『第七官界彷徨』の主人公である小野町子の兄の名前

問一 波線部 (a) の読み仮名として本文の内容に即した最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

18

- ① アザミ ② ヤブ ③ シダ ④ アシ ⑤ コケ

問二 波線部 (b) の、本文の内容に即した理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

19

- ① 人間は実際には常に嗅覚に基づいて認識しているから  
 ② 人間は実際には常に聴覚に基づいて認識しているから  
 ③ 人間は実際には常に知識に基づいて認識しているから  
 ④ 人間は実際には常に半覚醒状態で認識しているから  
 ⑤ 人間は実際には常に想像力だけで認識しているから

問三 空所イ～ホに入る語の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

20

- ① イ さらに 口 そして ハ また ニ しかも ホ つまり  
 ② イ また 口 つまり ハ そして ニ さらに ホ しかも  
 ③ イ そして 口 さらに ハ つまり ニ また ホ しかも  
 ④ イ さらに 口 つまり ハ しかも ニ そして ホ また  
 ⑤ イ また 口 しかも ハ そして ニ さらに ホ つまり

問四 波線部(c)の、本文の内容に即した理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

21

- ① その画家と私が同じ知識を持っていたから
- ② その画家と私が同じ感覚を持っていたから
- ③ その画家と私が同じ技術を持っていたから
- ④ その画家と私が同じ思想を持っていたから
- ⑤ その画家と私が同じ発想を持っていたから

問五

波線部(d)を含め、本文中に登場する「第七官界」を説明する記述として適切でないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

22

- ① 固定概念を排除した時に生まれる感覚世界である。
- ② 夢と現実のはざまに出現する世界である。
- ③ 霧のような世界である。
- ④ 五感を超えて認識される人間中心の世界である。
- ⑤ 日ごろ見慣れているものの形態が変化する世界である。

問六

本文の内容に即した記述として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

23

- ① 抽象主義の画家たちの描くものは現実には視ていない想像の産物である。
- ② 同じものが違って見えるのはそれ自体がほかのものに化けてしまうからである。
- ③ 異なった環境世界においては同じものが根底から異なった性質に変わってしまう。
- ④ 人間中心主義に陥っていると世界は単純明快には見えてこない。
- ⑤ 日常性から遠ざかれば遠ざかるほど私たちの感覚世界は鈍くなっていく。

## 問題三 次の各問に答えなさい。

問一 文意が一通りに限定されるものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。 24

- ① 駅前のスーパーで夕食の買い物をしている父に電話したがつながらなかった。
- ② 上司は話し合いながら仕分け作業をしている部下たちに進捗状況の報告を求めた。
- ③ 兄の結婚式で素晴らしい歌声の友人と妹がお祝いの歌を披露した。
- ④ 彼は静かに公園のベンチに座っている彼女の隣に座った。
- ⑤ シェフは特製ソースをかけた香ばしいグリルチキンを客に提供した。

問二 小説などの文芸作品における表現の場合を除き、日常の日本語表現としては適切でないものを、次の①～⑦の中から二つ選び、マークして答えなさい。ただし解答の順序は問わない。 25 26

- ① 彼女が丹精込めて作り上げた彫刻作品を美術館に展示されることになった。
- ② 景気の悪化により、企業への融資を渋る傾向が金融機関に強まっている。
- ③ 衝動に駆られて新刊本を買ったが、帰宅後まだ読んでいない本が山積みになっていることに気づいた。
- ④ 組織の長たる者の心得は、一度口にしたことをそう簡単に変えないことである。
- ⑤ 私は新商品を買いたがるため、ネットで発売前から情報を集めることを習慣にしている。
- ⑥ 周囲から信頼されている同僚が会社のスーパーに不正にアクセスしたのは、魔が差したからだろうか。
- ⑦ 次の選挙は、汚職や不正の噂が一切ない清廉潔白な候補者に投票したい。

問三 (1)～(3)の傍線部(a)～(c)について、表記または言葉の使い方の正誤の説明として最も適切なものを、それぞれ①～⑧の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。 27 29

- (1) <sup>(a)</sup>編集室で、原本と<sup>(b)</sup>照合しつつ<sup>(c)</sup>誤字脱字も見逃さないよう<sup>(c)</sup>構成作業を進めている。 27
- ① (a) だけが誤り
  - ② (b) だけが誤り
  - ③ (c) だけが誤り
  - ④ (a) と (b) が誤り
  - ⑤ (a) と (c) が誤り
  - ⑥ (b) と (c) が誤り
  - ⑦ (a) と (b) と (c) が誤り
  - ⑧ 誤りはない

- (2) プロジェクトの<sup>(a)</sup>確心部分に関係しない議論が<sup>(b)</sup>加熟したため、一部の社員は不快感を<sup>(c)</sup>露わにした。 28
- ① (a) だけが誤り
  - ② (b) だけが誤り
  - ③ (c) だけが誤り
  - ④ (a) と (b) が誤り
  - ⑤ (a) と (c) が誤り
  - ⑥ (b) と (c) が誤り
  - ⑦ (a) と (b) と (c) が誤り
  - ⑧ 誤りはない

- (3) 情報<sup>(a)</sup>漏洩があった銀行はセキュリティの強化に万全を<sup>(b)</sup>規しているが、利用者は<sup>(c)</sup>疑念暗鬼になっている。 29
- ① (a) だけが誤り
  - ② (b) だけが誤り
  - ③ (c) だけが誤り
  - ④ (a) と (b) が誤り
  - ⑤ (a) と (c) が誤り
  - ⑥ (b) と (c) が誤り
  - ⑦ (a) と (b) と (c) が誤り
  - ⑧ 誤りはない

問四 慣用表現を用いた(1)～(5)の文の空所に入る語として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

30

34

(1) 日夜  に汗して研究を重ね、ついに画期的な技術を開発することができた。

30

① 背

② 手

③ 顔

④ 首

⑤ 額

(2) 彼女は熱に  たように、アイドルの最新ニュースやSNSへの投稿を欠かさずチェックしている。

31

① うかされ

② けおされ

③ ほだされ

④ つまされ

⑤ うなされ

(3) バス停に向かう途中で、スマホを机に置いてきたことを思い出し  を返して家に駆け戻った。

32

① 裏

② 手の平

③ 意趣

④ 踵

⑤ 燕

(4) ベテラン社員達はくちばしが  新人だといって彼の言葉を真に受けず、冷笑していた。

33

① 白い

② 赤い

③ 黄色い

④ 青い

⑤ 黒い

(5) 相手側が圧倒的に有利な証拠を提示したため、どんなに反論しても取りつく  もない状況だった。

34

① すき

② しま

③ ぜひ

④ にべ

⑤ ひま